

令和2年度
中大規模木造建築加工・施工技術
基礎講習 修了試験
＜令和2年10月14日掲載＞

注意事項

1. 【試験問題】の解答時間は60分間です。
2. 解答は【解答用紙】に黒の鉛筆またはボールペンで記入して下さい。
3. 講習テキストを参照し解答して差し支えありません。
4. 【試験問題】に関する質問には一切お答えしません。
5. 【解答用紙】を令和2年10月19日までにアンケートとともに返送してください（当日の消印有効）。

【試験問題】

全部で18問あります。各問の文章を読み、説明が正しいものには○、誤っているものには×を別紙【解答用紙】の該当する解答欄に記入して下さい。

【第1編 木質構造の基礎知識】

問1 構造用集成材の曲げ、せん断、めり込みの基準強度は、樹種によらずラミナの等級と断面構成により定められている。

- 問2 曲げを受ける部材の引っ張り側に切り欠きを設けると、切り欠き部に応力が集中して割り裂きが生じやすくなるため、部材の有効断面係数を大きく減じることなどへの注意が必要である。
- 問3 木ブレース端部の接合においては、ブレースに生ずる引張力または圧縮力が、基礎、柱、横架材等にスムーズに伝達されるようにするとともに、柱脚、柱頭における接合部に有害な二次応力を生じないようにする。
- 問4 適用条件が構造用集成材である住宅用接合金物（梁受け金物等）を構造用製材に適用した。
- 問5 建築基準法第21条「大規模の建築物の主要構造部等」第1項に規定する大規模建築物の高さ制限の対象となる建築物には、高さが13mを超える倉庫及び自動車車庫が含まれる。
- 問6 雨水に晒される可能性の高い構造用集成材やCLTに使用される接着剤は、JAS規格に記載される使用環境Cで使用可能な接着剤を選択しなければならない。

問 7 人工乾燥は、工事の全体工程に合わせて、乾燥のスケジュールを計画的に組むことができるため、天然乾燥に比べて大幅な納期削減が可能である。

問 8 木質床と鉄骨フレームの混構造建物の場合、耐火被覆の方法は床と梁について、それぞれ個別に考えて行えば良い。

【第 2 編】木質構造部材の製作（加工）

問 9 木質構造部材製作者の選定に当たっては、実際に生産できる能力を当該製作工場の規模、従業員数、契約電力などから推定する。

問 10 バーチャート工程表は、作成も修正も容易である。

問 11 監督職員／工事監理者による製作要領書の承認は、製作工場の品質保証を含めた製作全体の実施計画に関する承認であり、この承認により木質構造部材の発注・製作など木質構造部材製作がスタートする。

問 12 木質構造部材の製作（加工）におけるドリフトピンの先孔径は、ドリフトピン径より 1 mm大きく開ける。

問 13 鋼板により構成される製作金物に溶融亜鉛めっきを施すにあたり、板厚が 6mm 以上であったため付着量を 350g/m²（HDZ35）で指定した。

問 14 社内検査により設計図書で要求している品質が担保されているか否かを、製作要領書や内部規程により確認し、その結果を作成・保存するのが品質管理記録である。

【第 3 編及び付録（建設業法）】

問 15 クレーンによるつり上げ荷重 1 トン以上の玉掛け作業を行うには、特別教育が必要である。

問 16 設計関係図書の優先順位は、高い方から順に、1. 質疑応答書 2. 現場説明書 3. 見積要項書 4. 特記仕様書 5. 設計図書である。

問 17 木造建築物の建方におけるボルトの締め付けは、座金が木質構造部材へめり込む程度とし、めり込む音が発生した時点で締め付けを終了しなければならない。

問 18 中大規模木造建築工事において、柱やはりなどの主要構造材に木材のみを用い建築する場合には、「大工工事業」の許可で工事をすることができる。

以上